



No.61 2020.7.3

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

まちづくり協議会 Zoom で地域事務局サロン

6月26日に地域事務局を設置している和坂・鳥羽・山手・江井島・魚住のまちづくり協議会さんが Zoom を使ったの情報交換会にチャレンジされました。初めて Zoom を使われる方もおられたようですが、結構スムーズに情報交換が行われたのではと感じました。Zoomにつながる環境がコミセンに整っていることが必要ですが、今後この輪は広がっていくのではと思いました。身近なところでも確実に変化が起っており、もうオンラインでの会議が特別なことではなくなってきているんですね。



地域事務局サロンではコロナ対策やコロナ自粛期間中の取組等の情報交換から、地域のまつりや敬老会等行事関係や各校区まち協さんの独自の取組の紹介もあり、私にとって、学校からの蛇口では出てこない情報に触れることができました。

“感染防止策への工夫”“手作りマスクや〇〇マスクを利用した校区マスコットマーク入りマスク”“地域冊子の作成”“一年生応援横断幕の作成”等、アイデアを実行に移すまでのフットワークの良さを感じました。また、こうした状況下でも、学校も地域のみなさんや保護者のみなさんと対話しながら何か一緒に取り組めることがあったのではと思いました。



地域事務局サロンを見学させていただく中で、こうしたサロン(オンライン&リアル)が各校区で開かれるようになり、テーマに関心のある、教師、保護者の方、地域の方等が集まり対話を重ね始めることが本当のコミュニティ・スクールづくりの第一歩なのではと考えさせられました。

魚住まちづくり協議会「17号池物語」

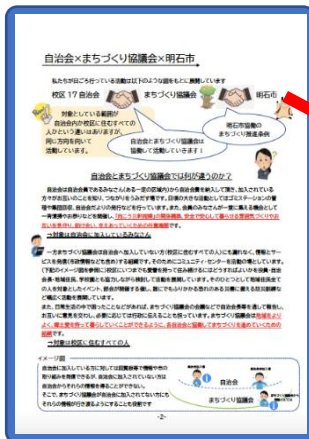
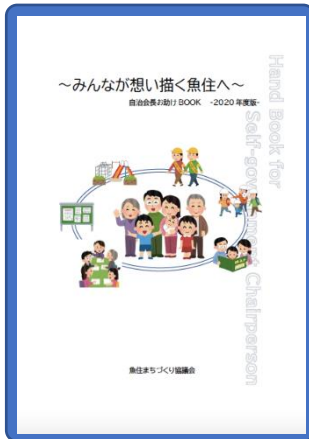
「17号池物語」は魚住小の南側にあるため池です。そのため池がため池部分3分の1を残して令和4年の完成をめざして緑のグラウンドや広場に生まれ変わろうとしています。その17号池の歴史を魚住小のシンボルであるクスノキの妖精である“くすのん”が子どもたちと一緒に旅をするという物語と17号池の資料がまとめられています。この冊子は魚住小4



年生に配られただけでなく市内の小学校や図書館にも配られ、活用されています。今後“17号池物語”を起点にした魚住小発の“探究学習”が、学校・保護者・地域のみなさんの対話の中で生まれ、育んでいくことで地域を支え、未来を創る子どもたちを育てる持続可能な地域カリキュラムにつながっていくのではと思います。

魚住まちづくり協議会「自治会長お助け Book」

現状として自治会長さんは自治会の中の順番等で、1年交代で変わられるとい



うケースが多くなってきています。そうした中で今年のような状況では集まることもできないため自治会長さんの不安は増していたのではないのでしょうか。「自治会長お助け Book」はそうした自治会長さんをサポートしようということで魚住まちづくり協議会さんが作成したものです。自治会の役割からまちづくり協議会がすすめるまちづくりの意義などこれからの地域を創っていく子どもたちにとっても参考になり、学習の中で使える冊子ではないかと思いましたが。また魚住まちづくり協議会さんでは“Line@”での情報発信もされており、コミスクの情報発信もこうした“Line@”等を考える必要があるのではと感じました。これも現状の課題を把握し、そく解決に向けての動きをつくるというフットワークの良さを改めて感じさせられました。

その「～みんなが思い描く魚住へ～」は子どもたちもその輪の中に入り、未来の魚住、未来の社会を支える子どもたちを育てる魚住小コミュニティ・



学校のテーマになるのではなかったりしました。そう思いながら冊子をみていると“学校が果たす役割とは”を改めて考えさせられ、対話を積み重ねていく必要性を痛感しました。

検索: [まちナビ明石](#) <校区別地域情報 < 魚住小学校校区 < 地域・組織の情報 < まちづくり協議会資料 < 自治会長お助け Book

江井島まちづくり協議会「アカテガニの神様」

地域事務局サロンで話題になった「アカテガニの



神様」を手にしてみたくなり、江井島まち協さんに連絡したところ快く分けていただくことができました。届いた冊子の表紙に若い頃お世話になった先生の名前がありびっくりしました。きっと地域を回り、話を聞き、古文書を調べ想像しながらこの江井島・地域ヒストリー「アカテガニの神様」を創られたんだろなと想像してしまいました。この「アカテガニの神様」は江井島中学校の全生徒に配布され、全生徒さんが感想文を書かれたというのを聞き、江井島のパワーを感じました。こうした取組を発展させ、どのような地域を、どのような学校を、また、地域を支え、未来を創る子どもたちにどんな力をといった対話が、学校・保護者・地域のみなさん、そして子どもたちも巻き込んでいくと江井島校区のコミュニティ・スクールとして“持続可能な いい学校づくり=いいまちづくり”が根付いていくのではと思いました。この「アカテガニの神様」をきっかけに、江井島中の子どもたちが地域のみなさんや保護者のみなさんと一緒に江井島・地域ヒストリーNo.2、No.3・・・と創作していけたら面白いなと勝手に妄想が拡がりました。そうした学びが Society5.0 の時代に必要な力を育てていくことにつながっていくと考えます。

今回地域事務局サロンを見学しながら、このコロナ禍の中で学校は地域や家庭とどれくらいコミュニケーションがとれていたのだろうと、「地域は海、学校はそこにかが船」という杉並区前教育長の言葉の重みを感じました。

(文責:北本)